

# 子育て支援センター「親子教室」実践報告

## Practical report on parent-child class of child raising support center

岡澤 哲子<sup>1</sup>

Tetsuko Okazawa

2019年度帝塚山大学教育学部子育て支援センター「まつぼっくり」主催の「第2回親子教室」を学生とともに計画・実践したその報告である。親子が一緒に遊びを楽しむというねらいを、コーディネーターである筆者と学生が共有しあって計画・実施した。内容は、クリスマスのイメージを感じながら親子で楽しめる多様な運動遊びや造形遊び等であった。事後アンケートによって、親子で楽しい気持ちを共有できたのは、「造形遊び他」よりも「運動遊び」である傾向が明らかになった。しかし、子育て支援としての親子教室では、遊び内容の領域にかかわらず親子で楽しい気持ちを共有するためには、実践者同士でねらいを共通意識するだけでなく、ねらいに対する内容の取扱いかたを、さらに共有することが必要であるといえるだろう。

### 1. はじめに

帝塚山大学教育学部の子育て支援センターの事業のひとつである「親子教室」(3歳から就学前の幼児とその家庭対象)の2019年度の実践報告である。

子育て支援は、1994年12月、エンゼルプランが策定された時点からスタートし(森合、2014)、その後の「次世代育成支援対策推進法」に示されたような家庭や地域の子育て力の低下に対応して、次世代を担う子供を育成する家庭を社会全体で支援する観点をもって進められてきた(厚生労働省、2003)。そして子育て支援に関する保育者養成機関の課題は、保育者が子育て支援を担うのだという主体的な学生の意識を育て、親と保育を語りあえる力量や地域とのネットワークづくりなどの実践力の育成である(岡澤、2004)。本学の親子教室は、子育て支援のこのような観点と課題を保持し、保育者養成機関としての役割を果たすべく展開してきた事業である。

瀬々倉(2019)は、大学の学科内で子育て支援活動を展開するための枠組みの構築過程で、教員の専門性を鑑み、広場型ではない子育て支援活動の意義を述べている。同様に、従来本学の親子教室の各回の内容は、単独の領域で一人の教員の計画により実施されてきた。しかし、本報告の親子教室の内容は「運動遊び」と「造形表現」の二つの柱で計画され、また、ひとりの教員がコーディネーターをして、大学のゼミ活動とサークル活動が協同して実践した。その点が、本報告の親子教室の計画と実践形態がこれまでと異なるところである。もちろん、どちらの遊びに対しても、親子が遊びでの楽しい気持ちを共有できることにねらいの重点を置いた。

### 2. 実践報告

- 1) 開催日時：2019年12月7日(土) 14:00～15:30
- 2) 開催場所：帝塚山大学学園前キャンパス 18号館体育室
- 3) 運営・計画・実践：教育学部教員・子育て支援センター職員、本学学生 33名
- 4) 参加者：近隣の家庭の28組が参加した。大人91名、こども49名であった。子ど

<sup>1</sup> 帝塚山大学 教育学部 教授

もの年齢の内訳は、3歳児13名、4歳児3名、5歳児10名、6歳児1名、対象年齢外兄弟姉妹21名であった。

5) 保育案：図1に示した。

**2019年度 帝塚山大学子育て支援センター第2回「親子教室」：親子で笑顔♡クリスマスいろいろあそび**  
**保育案**

1. 期 日 2019年12月7日(土) 14:00~15:30

2. ねらい ○親子が一緒に遊びを楽しむ。  
 ○季節への興味関心が高まる。  
 ○伸び伸びと体を動かす。

3. 内容 ・クリスマスのイメージをからだ全体で感じながら、親子で楽しめる多様な運動遊びや造形遊び(跳ぶ・登る・くぐり抜ける・バランスをとる・引く・走る・投げる・つむ・はう など)

4. 環境構成  
 体育室の配置

更衣室前  
 輪投げコーナー 「めりくり! わなげ」

5. 展開

14:00~14:10・・・舞台の前に集まるのでそりや雪山トンネルの遊び道具はよけておく(3年生岡澤ゼミ)

- 1) 挨拶・自己紹介・スタッフ紹介・全体のお約束・ビデオや写真の許可
- 2) 大まかな遊びのねらいと説明(親子で一緒に楽しむことを強調する・安全面の注意)

14:10~15:05・・・そりや雪山トンネルの遊び道具を戻す(3年生岡澤ゼミ)

- 3) コーナー遊びをする。
  - ・親子で好きなところに行って遊ぶ。学生スタッフが援助する。
  - ・各コーナーで学生スタッフが遊び方や約束を説明する。 \*15:00に全体遊びの声掛け(岡澤)

15:05~15:25・・・舞台の前に集まるのでそりや雪山トンネルの遊び道具はよけておく(3年生岡澤ゼミ)

- 4) パネルシアター「森のクリスマス」
- 5) ハンドベル演奏「きよしこのよる」(静かに聴く)「あわてんぼうのサンタクロース」(手拍子する)
- 6) サンタクロース登場(プレゼントは帰る時に部屋の外で渡すと伝える)

15:25~15:30・・・そりや雪山トンネルの遊び道具をよけておく(3年生岡澤ゼミ)

- 7) 終わりの挨拶
- 8) アンケート記入(3年生岡澤ゼミが配布回収)
  - \*ラウンジで、どれみ♪が複数で手分けしてプレゼント(+注意書き)を渡す。 \*全員で片付け

図1 保育案

## 6) 学生指導に関する取り組みの過程

筆者は第2回親子教室の担当教員として学生の指導や全体の企画・実施のコーディネートを担当した。本学の準クラブ「どれみ♪」の部員28名の学生（こども教育学科の学生はそのうち22名）と筆者が担当する授業であるゼミナールⅡの3年生7名が参加した。前者はサークルが従来から行ってきたクリスマスの「こどもフェスタ」と同様に、主に「親子の造形遊び」を担当した。後者は、ゼミナールⅡの課題である「テーマ探求」として「親子の運動遊び」を担当した。双方に、親子が触れ合って遊びの楽しさを共感しあうことを大切にするよう筆者から子育て支援の意味を伝えた。ゼミナールⅡの学生には、幼児期の運動遊びに関する講義を筆者が事前に行った。

双方の活動時間が異なることから、一緒に準備をしたのは開催日の前日からである。準クラブ「どれみ♪」は、わくわくリース、ツリーづくり、めりくりわなげ、プレゼント積み、パネルシアター、ハンドベル演奏を担当した。ゼミナールⅡの学生は、雪山サーキット、そりすべり、雪山トンネル競争、クリスマスツリージャンプ、雪だるまの玉入れ、サンタさんの的あてを担当した。

## 7) 遊びの内容詳細と遊びの様子

遊びの詳細を図2～13に示した。



図2 わくわくリース



図3 ツリーづくり



図4 めりくり！わなげ



図5 プレゼント積み

図2のわくわくリースは、リースの丸い部分に両面テープを貼っておいて、小さく切った折り紙を上から散らして、偶然にくっついた色紙の模様をリースの模様として楽しむ内容である。

図3のツリーづくりは、ツリーの形に好きな模様を書いたり貼ったりしてツリーを完成させる。リースやツリーづくりでは親子が一緒に並んで座り子どもの作る様子を親が見ながら時々手伝い楽しむ様子が見られた。

図 4 のめりくり！わなげは、クリスマスにちなんだアイテムに向かってリースの輪を投げ入れる遊びである。操作運動としての運動遊びであった。参加証としてきらきら光る折り紙で作ったリボンがもらえるためか、何度も挑戦する子どもの姿が見られた。プレゼントのキラキラリボンをからだ中にくっつけて親に見せている様子もあった。

図 5 のプレゼントつみは、箱の側面の模様を完成させるように積み上げていく遊びである。こどもの身長より高くなるように製作しているため、高いところに積み上げるには親子で協力しないとできないようになっている。

図 6 は「森のクリスマス」というタイトルのパネルシアターである。ストーリーの中に挿入歌が繰り返されるところが心地よく感じられ、親子で集中してみている様子があった。

図 7 のハンドベル演奏では、「きよしこの夜」「あわてんぼうのサンタクロース」が演奏された。親子で座ってハンドベルの音を静かに聞いて楽しんでいた。

図 8 の絵本コーナーは、静の遊びとして親子でクリスマスにまつわる絵本をゆっくりと読む遊びコーナーである。コーナーとして置いただけで担当がいなかったためか利用する親子が少なかった。



図 6 パネルシアター



図 7 ハンドベル演奏



図 8 絵本コーナー

図 9-1、2 のゆきやまサーキットは移動運動と操作運動、そして親子の触れ合いを意識したサーキットである。サーキットの中頃に袋の中のカード（文字が書いてある・マグネット式）を引いて、雪山の頂上にあるホワイトボードに、クリスマスに関連のある言葉になるように貼るという楽しみも加えた。高いところを移動するところでは親が側で付き添って時々手を添えたりしていた。また、言葉集めでは親とともに考える姿や、最後の文字が入り言葉が完成した時に、鐘を鳴らすようにしたため、喜んで再挑戦する子どもの姿が見られた。

図 10 のそりすべりは、段ボールで作ったサンタクロースのそりにこどもが乗って、コースに沿って親が引っ張る遊びである。親の引っ張るという運動に合わせてそりに乗ってこどもが姿勢制御をすることと、親子の触れ合いをねらいとした。親が引っ張ってくれるので乗っている子どもは安心し手寄せそうな笑顔を見せていた。折り返しで曲がる時に、そりが倒れそうになってもしっかりとつかまって親を信頼しているこどもの様子があった。

図 11 のゆきやまトンネル競争の用具は、マットを大きめのシートでくるんだもので、その両端から親子がスタートして真ん中ですれ違いどちらが先に出口に出るかを競っ

て遊ぶものである。這うという移動運動とすれ違うところでの触れ合いや競争することの楽しさを感じる遊びである。遊び方がわからず戸惑う様子もあったが、一つの遊び方でなく様々な展開の仕方をして楽しんでいた。例えば、真ん中で出会ったらハグをしてから出口に向かったり、真ん中の切れ目でお互いに顔を出して笑いあったりなどである。

図 12 のクリスマスジャンプツリーは、こどもの身長より高いところによじ登って、オーナメントを取って跳び降り、クリスマスツリーに飾るという遊びである。跳び箱にマットをかけて、横にクリスマスツリーの絵を貼り、巨大な山のようなツリーに見えるようになっている。よじ登るといふ移動運動と跳び降りるといふ移動運動を組み合わせている。こどもが登るときに初めから補助しまっている親と、どこまでできるかとまずは見ている親とに分かれていると感じられた。こどもは意欲が十分に高まっていた。しかし登ってみたら意外に高く、跳び降りるのが怖くなっているこどももいた。親が励ましている様子や、初めは登れなかったが何回も挑戦して登れるようになっているこどもに親が称賛の拍手や声かけをしている様子も見られた。

図 13 のサンタさんの的あて・雪だるまの玉入れは、雪玉に見立てた布製のボールを、的に当てたり入れたりする遊びで、操作運動と親子の触れ合いを組み合わせている。こどもが的に当てられると称賛の言葉がけをしている親がほとんどで、なかには親自身も玉を持って投げている様子も見ることができた。



図 9-1 ゆきやまサーキット



図 9-2 ゆきやまサーキット



図 10 そりすべり



図 11 ゆきやまトンネル競争



図 12 クリスマスツリージャンプ



図 13 サンタさんのあて・雪だるまの玉入れ

## 8) 事後アンケートとその分析結果

各家庭に事後アンケートへの記入を依頼した。アンケート用紙は資料 2 に示した。ゆきやまサーキット、そりすべり、ゆきやまトンネル競争、クリスマスツリージャンプ、サンタさんのあて、雪だるまの玉入れ、めりくり！わなげ、プレゼントつみを「運動遊び」とし（阿江、2005）、わくわくリース、ツリーづくり、パネルシアター、ハンドベル演奏、絵本コーナーを「造形遊び他」として、「いろいろな遊びの中で、親子で楽しい気持ちを共有できたか」の項目得点の平均を図 14 に示した。事後アンケートによって、親子で楽しい気持ちを共有できたのは、「造形遊び他」よりも「運動遊び」である傾向が明らかになった。今回の親子教室のねらいは、どの内容の遊びでも親子で楽しさを共有できることが目的であったので、結果として不十分であった。内容及び内容の取扱いに関して留意すべきであった。

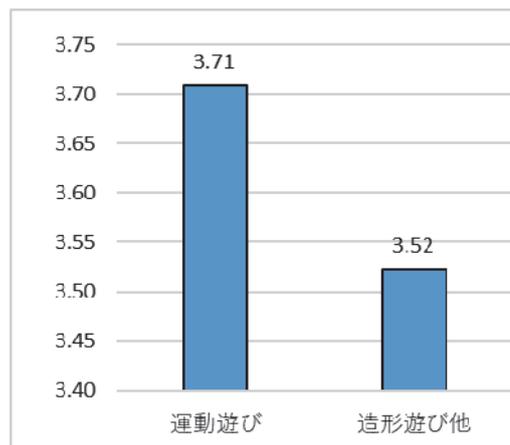


図 14 「親子で楽しい気持ちを共有できたか」得点平均

## 9) 学生の事後の振り返りレポート

実践をした学生の振り返りレポート及びアンケートから、親子に関する部分と運営等に関する部分を抜粋し次の A~I に示した。

**A:** 親子教室を終えて、改めて親子が一緒に遊んだり触れ合ったりすることが、とても大切だと気付きました。運動遊びでは、結構難しいものもある中で、普段の遊びだけでは見ることができない、子どもが知らない間にできるようになっていることや、興味があるもの、出来ないことをやろうとする力がわかると考えました。またお家の中で家族と遊んでいるだけでは気づけない、子どもたち同士の触れ合いや保護者同士の触れ合いができる場所になっていると感じました。少子化や子育てに悩んでいる保護者が増えている中で、このようなイベントに参加したり子育てを積極的にしたりしていくことが大切だと気付きました。保育士として、保護者の方の気持ちに寄り添い保護者の方が安心して相談できるような信頼関係を作ることができる先生になりたいと思いました。

- B:幼稚園や保育園の実習の際、基礎的運動パターンを意識していなかったがそれを基に考えることで、子どもの力や運動遊びのパターンが広がっていくと感じました。
- C:親子教室を通して、事前に考え切れていないことが多くあったなと感じました。もっと様々なことを計画している時点から考え、予測しておく必要があることに気付くことができました。そして、順番を守ることや安全に配慮した言葉掛けができればより良かったかなと思いました。しかし、自分たちが考えた遊びで親子が楽しく遊んでいる様子を間近で見ることができ、とてもやりがいを感じることができました。
- D:今回の親子教室では、ただ基礎的運動パターンを取り入れたコースにするだけでなく保護者も子どもと一緒に楽しく遊べるよう考えなければならない部分があり最初はとても苦労しました。しかし、これらの経験は将来、参観日などで保護者と一緒に楽しんでもらう企画を提案する際にきっと役に立つと考えています
- E:もう少し、子どもが興味を示す方向性を予想し、準備を進めていくべきだったと反省した。
- F:一人で準備を進めてしまうことが多かった。もっとチームでの準備を心がけようと思った。
- G:ゼミ企画が中心のような気がした。
- H:次回はもっと連携を取って参加したい。
- I:活動前にきちんと今回の目標を決めていなかったことが反省点です。

これらの学生の振り返りのポイントは、①親子教室では、親子がともに遊びの楽しさを共有することが重要であること、②親子で親子教室に親子が参加することには子育てにおいて意味があり、それをサポートすることはやりがいがあること、③運動遊びの場合は特に安全面に配慮することが必要であること、④将来の進路に向けて有意義な経験であったこと、⑤協同することのさらなる必要性を感じたこと、以上大きく5点にまとめられた。

### 3. 今後の課題

本学の子育て支援としての親子教室では、内容の領域にかかわらず親子で楽しい気持ちを共有することが主なねらいである。そのためには①学部内で子育て支援活動を展開するための枠組みの構築を再検討すること、②実践者同士でねらいを共通意識するだけでなく、ねらいに対する内容の取扱い、すなわち子どもに対応する際の留意点を共有する準備期間を十分にとって協同すること、以上2点が課題となる。

### 文献

- 阿江通良：幼少年期に身につけておくべき基本運動（基礎的動き）に関する研究、平成17年度日本体育協会スポーツ医科学研究報告、I、2015
- 厚生労働省：次世代育成支援対策推進法、2003
- 森合真一：保育政策の歴史的展開と保育士養成、近畿大学豊岡短期大学論集、第11号、pp.1-9、2014
- 岡澤哲子：子育て支援に関する保育者養成機関の課題（1）－学生に意識の観点から－、甲子園短期大学紀要、22、pp.37-4、2004
- 瀬々倉玉奈：保育者養成課程における子ども・子育て支援の枠組：親子支援ひろば「ぴっばらんど」の実施準備、京都女子大学教職支援センター研究紀要、01、pp.53-59、2019



◀ 申込方法 ▶

参加ご希望の方は10/1から10/25までの間にメールで下記の通りお申込みください。先着順となりますので定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

- (宛先) child@tezukayama-u.ac.jp  
 (件名) 2019年度親子教室申込  
 (本文) ①お子さまの名前(ふりがな)・年齢・性別  
 ②いっしょに参加される保護者・ご家族の名前  
 ③郵便番号・住所・電話番号  
 ④希望の回(例 2回とも希望、1回目のみなど)

受付後返信しますので、受信できるようご準備ください。1週間たっても返信メールが届かない場合やご不明な点等ございましたら0742-88-6022までお問合せください。

※お預かりした個人情報は、親子教室における連絡と関係者間でのみ使用いたします。それ以外の目的で利用することはありません。

**第1回** 頭と言葉、使って遊ぼう！環境認識ゲーム  
 11/2(土) 西村真実教授 定員20組

遊びは子どもが自分の周りに興味・関心を向けることから始まります。目と耳、手、そして言葉を使い、ゲーム形式で身の周りから環境にアプローチすることを楽しみます。子どもの目的は「遊ぶ」こと。その遊びの中に「思考」があります。そんな思考を含めて大人も一緒に楽しみましょう！

**第2回** 親子で笑顔♡クリスマスいろいろあそび！  
 12/7(土) 岡澤哲子教授 定員25組

～ミュージックシアター・クラフト・ゲーム・運動あそび～  
 今年のクリスマスの遊びはいろいろあってドキドキワクワクもりだくさんです。クリスマスの歌や劇、楽器の演奏、楽しいゲーム、そしてからだをいっぱい動かす冬の運動遊びもあります。おうちの人やお友だちと一緒に来てください！

帝塚山大学 TEZUKAYAMA UNIVERSITY

〒631-8585 奈良市学園南3-1-3 帝塚山大学 親子教室 検索

0742-88-6022 (子育て支援センター 火～金/9:00～17:00)

child@tezukayama-u.ac.jp

http://www.tezukayama-u.ac.jp/social/childcare\_support.html

お問い合わせは子育て支援センターまで

資料2 家庭用事後アンケート用紙

令和元年 第2回 親子教室「親子で笑顔♡クリスマスいろいろあそび！」2019年12月7日(土)

参加者アンケート

本日は親子教室にご参加いただきありがとうございました。ご家族で楽しんでいただけましたでしょうか。今後の企画・運営の参考にさせていただきますので、以下のアンケートへのご協力をお願いいたします。

Q1 今回の親子教室を何でお知りになりましたか？該当するものに☑をお願いします。

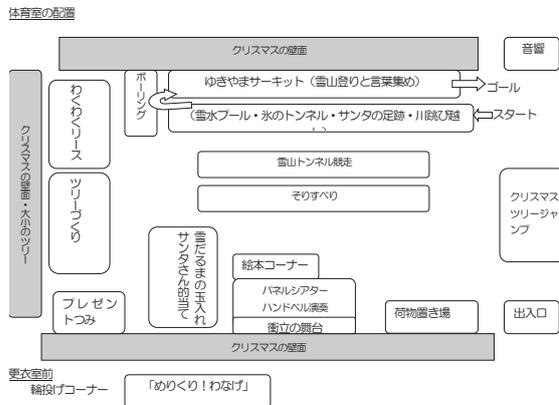
- チラシを見て  大学HPを見て  知人から聞いて  つどいの広場で聞いて  その他 ( )

Q2 参加されたお子様の年齢に☑をお願いします。また差支えなければ通われている幼稚園・保育園を教えてください。

- 3歳未満  3歳  4歳  5歳  6歳以上 (園名 )

Q3 いろいろな遊びの中で、親子で楽しい気持ちを共有できましたでしょうか？ 4段階でお聞きします。当てはまるところに☑をお願いします。

遊びは以下のような配置でした。回答の参考にして下さい。



	とても共有できた	まあまあ共有できた	あまり共有できなかった	全く共有できなかった
	4	3	2	1
ゆきやまサーキット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
そりすべり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゆきやまトンネル競争	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
クリスマスツリージャンプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サンタさんの当り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
雪だるまの玉入れ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
めりくり! わなげ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ツリーづくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わくわくクリスマス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プレゼントつみ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パネルシアター「森のクリスマス」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハンドベル演奏	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
絵本コーナー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4 スタッフの態度や雰囲気はどうでしたか。よろしければその理由や改善すべき点などお書きください。

- とてもよかった  よかった  ふつう  よくなかった  とてもよくなかった

(理由: )

Q5 今後やってほしい遊び、企画などございましたら自由にお書きください。

Q6 イベント全般を通してのご感想やご意見を自由にお書きください。

(例) 応募方法、開催場所・時間、イベント内容への意見、改善点等

アンケートへのご協力誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。またのご参加をお待ちしております。